

## 法政大学島野教授の研究チームが、八重山諸島（石垣島と西表島）に 生息する日本最大のヤスデであるヤエヤママルヤスデを新種記載

～2006年から未記載種のまま絶滅危惧種（絶滅危惧 II 類 (VU)）として環境省版レッドリストに掲載されていたヤエヤママルヤスデ（体色が赤と黒の美麗種）を学名 *Spirobolus akamma*（学名読み：スピロボルス・アカンマ）として新種記載～

### 【発表のポイント】

- (1) ヤスデは落ち葉などの腐植などの有機物を餌としており、毒をもつ顎肢を持たず咬まれることはない。
- (2) 日本最大のヤスデ（体長 7.5 cm）の「ヤエヤママルヤスデ」と呼ばれてきたマルヤスデ属 *Spirobolus* の未記載種は、沖縄県・八重山諸島の石垣島と西表島、およびその間にある小浜島から記録されており、環境省版レッドリストに掲載され、絶滅危惧 II 類 (VU) とされながらも、分類学的位置づけは長らく未解決であった。
- (3) 形態学および分子生物学的アプローチにより、本種を *Spirobolus akamma* Kato, Takano, Nakano and Shimano, 2023 として新種記載を行った（学名読み：スピロボルス・アカンマ）。
- (4) 学名の由来は、ヤスデが「馬陸（やすで）」とよばれること、本種が赤と黒の体色の美麗種であること、そして赤馬節として歌に歌われる八重山諸島の民話に由来している。

法政大学島野智之教授は、2023年に日本最大のヤスデであるヤエヤママルヤスデ（ヤスデ綱）を京都大学などのチームと共に新種として記載した。ヤスデ（ヤスデ綱）は、ムカデなどと共に多足亜門を構成している。ムカデは一般に他の小動物を捕食するため顎肢に毒をもつことが多い。しかし、ヤスデは落ち葉などの腐植などの有機物を餌としており、動きも比較的ゆっくりで毒をもつ顎肢を持たず咬まれることはない。

ヤスデの英名は millipede であり、ラテン語で千 (milli) の脚 (ped) に由来するように、多足亜門の中でも体節が多く、1 節あたり 2 対の脚をもっているのが特徴である。

これまで和名「ヤエヤママルヤスデ」と呼ばれてきたマルヤスデ属 *Spirobolus* の未記載種は、沖縄県・八重山諸島の石垣島と西表島、およびその間にある小浜島から記録されており、環境省版レッドリストに掲載され、絶滅危惧 II 類 (VU) とされながらも、分類学的位置づけは長らく未解決であった。

しかし、本種の保全を考える上で、分類学的に明確にすることは必要であるため、環境省レッドリスト委員である島野教授は、加藤大河京都大学理学研究科大学院生、中野隆文同准教授、高野光男氏（元レッドリスト委員）と共に、本種の分類学的研究を行った。

本論文では、形態学および分子生物学的アプローチにより、ヤエヤママルヤスデの分類学的位置づけを検討した。形態は、前脚の形態、後脚の形態、および後脚の側縁に 4 つの鋸歯を持つ点で中国大陸や台湾の固有種とは異なっていた。核の 28S リボソーム RNA 遺伝子、ミトコンドリアの COI 遺伝子及び 16S リボソーム RNA 遺伝子の部分塩基配列の情報は *Spirobolus* 属に所属している事を示唆した。これらの情報に基づいて、本種ヤエヤママルヤスデを *Spirobolus akamma* Kato, Takano, Nakano and Shimano, 2023 として新種記載した（学名読み：スピロボルス・アカンマ）。

本種は、体長 6.5 cm～7.5 cm であり日本最大。学名の *akamma* 「赤馬（あかんま）」は、ヤスデの脚がたくさん馬が駆ける様に動くことから「馬陸（やすで）」とよばれることと、本種が赤と黒の体色の美麗種であること、そして赤馬節として歌に歌われる八重山諸島の民話に由来している。1670 年頃の話で、おめでたいときに歌われる歌ではあるが、主人のことを慕う従順な赤い馬の悲しい物語でもある。

本種は現地でも個体数が減少しており、今後、ますます保全の対象として、重要な種となる。

**発表雑誌**：Species Diversity（スピーシーズ・ダイバーシティ）誌

2023 年 1 月 12 日（木）に公開

**論文タイトル**：Taxonomic Assessment of a Threatened Large Millipede Endemic to the Southern Ryukyu Islands, Japan:

A New Species of *Spirobolus* (Diplopoda: Spirobolida: Spirobolidae) from the Yaeyama Islands（英文）

**著者**：Taiga Kato, Mitsuo Takano, Takafumi Nakano, and Satoshi Shimano

<https://doi.org/10.12782/specdiv.28.23>



ヤエヤママルヤスデ  
（写真：島野智之）